

小精廬日誌

大正十四年一月以迄
至同年五月末日

特別

14

1919

593

50

45

40

35



小精庵日記

大正十四年乙丑二月

元旦



天氣清朗氣溫暖多、例に依り居る蘇の杯を
 举杯餅を喰ふ、まゝに舊例に從ひ、余六十六
 の年をとりぬ、家に翻る事未婦と迎へる、朝
 子、未嫁でさるの女あり、内子、夫死んで他よりこ
 とし、八家と改定し、朝子と婦と迎へんと、朝子
 加り、車に午殺む、う来、六朝、居、後、隨、ち、頼
 山陽の禱符を懸んとし、葦を把り、香き、朝

食を喫し麦酒を飲け。飯後浅草に初め観音
を参る。この人のみり流石と云く僅に
此より立ち去る。夜来寒き氣海増え元山

三日

時今朝飯前行を決し午後行者とゆい、城南
、携り帯し、入る道折を用きす、丸月と葉
子田原をく、鷲の丸橋、飯後塩川、をり
本より納め九時、子自動車と取り、東京駅
より先え送り、未、十時十分、男、車、従未

田府津より下車の、根府川に直る。流
あり、雷突くも破壊の、城、根府川に斬せ
開あり、也。車中、森澤、新副、八十六
守、北、助、等、に、合、ま、乗、客、車、室、に、溢、ん、坐、席
を有、客、り、行、ま、す、ま、の、十、数、を、異、し、混、雑、を
極、む、指、の、帯、の、新、村、出、の、近、者、南、聖、更、紗、を
翻、讀、し、無、聊、を、醫、す、田、府、津、駅、に、他、の、車
室、に、移、り、客、人、多、く、益、に、混、雑、を、極、む、午後
一時、根、府、川、に、着、く、この、十、町、計、徒、歩、に、必
あり、為、物、を、運、搬、せ、し、ま、る、未、帽、少、敷、の、以、免

各人行きも自から折のへるを得ざる不便あり
皆こまに眼を、余も困難を感ず一人として
由徳寺中、震災の難中時、しことを追
懐せしめ、漸く汽車に投ず、車中、新河
松木、五島の熱海へ行く、今年、徳島中
之談す、汽車の湯河原にて尽き、守屋、夫
妻と自動車に同乗直に熱海に向付、岩す、
湯河原と別路の湯ヶ原に止まり、袂を別つ、三
時は四の五の村の荘に投ず、尚古く、中、半次
郎未だ、坪内の荘庭前に、築四郎、不名の

茅屋あり、見ゆしと、遮りし所、昨年、湯河原の
跡、不とも、今、茅屋、元、拂、元、那、望、此、の、こ
可也、浴後、道、途、久、め、と、杯、と、奉、け、甜、餅、例
の、書、首、に、臥、す、深、夜、汽、笛、に、夢、を、彼、ら、え、起、き
て、時、を、換、え、て、時、計、を、捲、く
ことを、又、念、し、心、確、に、時、を、知、り、結、ん、だ、天、の、道、し
と、推、断、し、枕、頭、の、香、を、取、つ、て、後、去、り、二、時、間
寝、ん、を、不、眠、の、再、い、覚、め、未、だ、の、既、に、七、時、を
過、く

晴、松木山天、雲、來、ゆ、の、ま、の、書、高、く、都、計、し、し、書、を
 讀、志、中、此、ま、か、ら、し、目、の、別、と、生、け、と、去、る、干
 舟、の、後、道、の、途、と、や、と、廢、業、也、魚、又、岬、道、新
 修、の、道、詠、を、か、し、一、此、年、零、災、の、陸、海、備
 の、所、見、破、損、し、た、る、江、岸、の、林、地、と、採、る、鳥、帽
 子、罷、今、の、け、の、災、也、と、罷、ね、と、招、く、其、附
 也、此、世、の、事、も、ま、く、扱、し、た、ら、ん、こ、ハ、世、の、事、也、
 と、憐、れ、の、を、か、し、も、此、林、地、ハ、メ、チ、ヤ、く、と、僅
 々、一、ヶ、所、の、聊、々、四、時、の、雨、影、を、取、り、可、

り、吾、等、亦、人、概、お、之、れ、と、久、く、か、る、道、是、故、業
 中、以、今、某、報、誌、の、為、の、報、を、と、え、と、了、賤、不
 と、憐、れ、目、に、見、て、其、理、解、し、得、る、建、業、之、益
 美、術、の、世、界、的、的、の、中、に、鑑、賞、を、得、一、つ、の、あ、る
 言、う、女、の、姉、妹、姉、妹、美、術、に、又、よ、か、其、の、そ
 美、の、世、界、的、の、了、る、さ、る、の、心、の、あ、る、世、界、的、理、解
 と、得、さ、る、不、利、不、幸、ハ、日、本、文、字、の、な、る、也、也、
 一、と、多、し、外、國、の、人、の、理、解、し、得、さ、る、也、也、を、
 すと、さ、る、也、吾、等、人、が、之、を、理、解、し、得、る、能、く、が
 一、と、勤、士、と、ん、ん、吾、等、從、の、文、字、歌、を、寫、制、し、西

洋の文意に比し一概に力及ぶところあり如きは必
研究の必要ありと批判せしむるも、彼
我の文章の比較より、後之の多くを知る
が、終に法岸よりと雖も、所々井上辰幸
と相見れば、心付ゆも、一時澤湯候
：客契後湯出し入況を捨し、三人は
在入りも、退えぬの響を聞き、館候の
後各々揮毫、九時夜、乾く

五日

昨夕朝寒、陰計四時、乃ち松の氣温依
き方々、分後(道)と深淵に、ま(二三)の談
を交す(其々)の語の得々、隈取のう大馬
濡白車(並)九時(道)とせ、梅園を
花四分(道)芳す、四葉(中)別在(道)も
年(開)梅(道)の道、より梅(道)を仰(上)
り、一(道)も、景(道)より、市(中)に
寺(地)の古(物)を、高(士)屋(院)候(功)の(者)
時(話)し、洞(子)を、梅(道)の(在)は、井
上(来)の(都)時(可)流(す)高(田)半(本)今(夜)

其後、未だ古くは、本方をも報あり、井上玄
と後一途も是と對的、研後早大の前金と
論議し、有人、窮る昂奮、ハ時、寝て於
書を讀む、或、睡天の、り

二日

時、相命の、後、道、道と、於、談、時、を、後、夫、福、地、依、回
言、河、川、底、^讀、^山、岸、田、^吹、^香、^成、^此、^柳、^北、^保
名、^坂、^島、^文、^茅、^の、^子、^及、^心、^の、^次、^初、^幼、^文、^壇、^混
沈、時、代、の、事、^こ、^ろ、^も、^な、^る、^道、^遠、^又、^外、^回、^評、^と、^澤、^こ、^ら

世界、^に、^在、^る、^事、^も、^本、^邦、^物、^産、^の、^内、^亦、^取、^物、^産、^に、^な、^る
く、^よ、^の、^事、^と、^説、^く、^用、^を、^得、^て、^道、^遠、^書、^高、^と、^存
井上、^男、^の、^江、^戸、^文、^学、^研、^究、^と、^讀、^む、^此、^書、^高、^と、^數、^多
の、^河、^原、^紀、^念、^物、^産、^列、^し、^あ、^る、^也、^意、^も、^河、^原、^是
^徳、^の、^本、^額、^と、^揚、^げ、^ら、^る、^有、^像、^画、^二、^三、^種、^揚、^げ、^ら
^る、^外、^ス、^ラ、^ウ、^ト、^フ、^ス、^ド、^ア、^ウ、^カ、^ン、^に、^製、^を、^せ、^ん、^事、^す、^於
本、^四、^五、^種、^例、^の、^豆、^本、^全、^集、^河、^原、^手、^抄、^の、^聖、^文、^を
豆、^本、^と、^縮、^め、^ら、^る、^一、^ア、^ミ、^リ、^ー、^ヒ、^コ、^ド、^の、^収、^め、^ら、^る
ス、^ト、^リ、^ー、^リ、^フ、^ス、^ー、^ク、^ス、^ピ、^ヤ、^ん、^も、^豆、^本、^と、^標、^紙
ハ、^河、^原、^に、^像、^{あり}、^ト、^リ、^ニ、^テ、^一、^寺、^院、^の、^マ、^ー、^ク、^材、^を

んじ今の修理を經、光年無かりし書廊下の新
設を以て、浴室とあるの回廊也。此ホテんの食を
南を受けし早より、朗らこと春の如し
室の暖地を入んことと温暖しと熱海氣
か舌と濃かろう、洋公の早に就き、真書する
う一杯を飲け、自動車を一輛を同乗、松園
を以て、折つと、自動車を一輛を以て、初めは前
の記に録し、道より先づ園内を下覗し、道に
り下り園に入り、撫松庵に憩ふ（此庵に就き
皆と坊の庭に入り、冬に主人の需と成し、持葉

一七時を初め、高田の寺の南書廊の西冊とあり
和歌を以て、晚景、崖下の水園に道邊の
細いものと云く、此園の考は、先年余ハ透籙園
の名を命し、且つ坤直し、其く、今ハ透籙園
装とん、坐敷に揚け、一碑の後、其の井上
と別、高田の寺の朝園府津、今ハ一、其の
夜、七、天の、此、眠を得る

七日

今朝未天候、雲し、其の雷とんと、其の

心地たる朝堂に余が適として城後保を材料
とし七草粥を煮め食後好めと例のこころ
旅法を交わち道邊より七草粥を煮
てさるゝえとち道邊に掛せ果を搦ひし
活筆を雅文に述のなるよふして往り和歌を交
ひ庭前に茶の芽庵を築きえ為め遠景を
近断せんや根とまを取拂ひ得るまをい
を叙しやあやう文も野も名と自也余の記念
言又の大要を録す守るゝ四時一由言計
活しゝぬゝとあゝ天候の真きよも遊ありて終の外

に出が新時を書るゝ三草粥を道邊と示す
旅方を讀且つあす井上原事務所書前
中函書一四時執一函の地震のげんご
頭を張るゝ好くゴツツリとてさ
を悉くべし井上ある後浴し直と
飲早く所す

八日

明日朝物重を未し今朝試みて雪紙を井上
の物重物と明ら今朝とまを一口の乾杯と

亦あめ朝日付の事を決す。道邊を登降し時
を移し、十時(三)井上を極る。ゆふおれ
散葉古尾ぬ印跡、主なる。余も古尾の
押巻をせしむ。直に一押し。松林桂月華
いれの小意冊を焼く。價十兩の古書、
去つて木の宮を焼く。井上を極る。庚の
時、午時也。古尾をも極る。位すし。いふ
神記(大改す)を以て名ある。二入
り一杯を極る。呼ばぬ用の古書、柳掬
して具に入り、三時終る。去るも具ある。去る

九日

時、分相六時記。古尾を徹る。し。時万ヤ(七)
相葉の古書、行書をもて名ある。十時(三)

本館後、別荘を井上を以て十一時三十分自動
車を起り湯ヶ原に到る、賃税の目外手の中
①種、池ヶ原停車場に内田嘉吉に合はる十二
時廿五分着車、根府川附近の山つちを以て
此時前入る者十数丁迄は前口のことに、
不便を感ずる、漸や根府川停車場に
達し、更に一時間ほど待、一時早急の汽車に
投し、心田原驛を以て市街を踏み、午八
時五十分山毛、内子風物ありて暮暮す
にあり、其時未だ、暮暮、未暮の
も、秋の夕色を懐き、又地方を以て秋の
到来、夜来雨あり、終に雪とす

十日

夜来の雪堆を為する冷りつ、く大隈先公
三年前此の暮暮、今朝九時、護国寺地内
に暮前祭を行ふ、雪と冒かして冬列、多
りあり、早大思物、故に別り田中坂本暮
に合し、十一時大隈家別荘に到り、雪霽前
祭に参列し、午八時の御祭を以て、一時自動

車と記りの久江と谷中御物に到り昆
田文治印母の告別式に臨む昆田の花
璽を贈る午後を色紙に記す此書に二
時帰宅十三日印刷会花の記す午後十
七日日記の重役會をひらくに決す木内重
四郎村田保の記に據す、坪内、流石と
真崎桂治中寺治之重役を記す此書に三
時外出丸巻者衣を物に二三日間も辨
坊屋中七札を贈る此書に記す此書に
二回ハリ車と記す、原井に四郎の日記
宛を贈る山本常虎に印書を贈る(二十四日)
今朝大浴衣に浴衣の今更時刻後
こども行かず

十一日

日

所、政上公長、事分例の注財を交く、長
池書三未、此小祥、協者、都長、謝、乘
と、船、船を著す、村山、是、印、紙、田、書、長、
と、状、を、書、す、午、後、珠、子、の、物、を、贈、る、田、原
尾、二、飯、(、村、田、の、紙、林、を、物、に、之、と、其、

爲典三身功考母と世史必を成るを辛部
一物

十二

時、風ついで、往村山田志屋森邸、美村文、
身功、好ゆ、二三日、茂山、函状、著、お包、
差、出、す、宛、宛、を、著、す、田村、廿二、中、
二、田、志、屋、交、付、文、の、場、合、之、取、越、料、問、題、
の、時、来、一、冊、麻、生、心、花、の、贈、り、二、十、田、内、子、交、
付、場、内、一、簡、を、投、す、村山、葉、一、中、も、吉、
状、哲、の、書、中、の、使、来、の、日、の、印、刷、り、味、内、書、大、
部、を、蟹、一、紙、贈、り、来、り、祐、田、の、出、店、を、
外、に、着、す、の、目、を、購、め、細、川、志、屋、二、十、田、内、
坂、田、誠、来、訪、手、塚、弘、平、と、其、出、

十三日

時、風、旋、疾、を、草、子、し、時、と、禱、す、道、邊、
湯、島、別、の、四、脚、佛、依、念、を、垂、身、念、に、定、め、
る、事、を、通、知、す、る、を、著、す、秋、あ、来、十、森、
を、一、後、一、と、著、す、十、吉、早、大、維、持、
會

同日夜梅月に於て出版部印刷分託費相付
金二十日午後大隈とあし、訪言し、その
電報を決定、開、集し、藤井の江戸文子
研究を懐ち、の衛生会下も、の歌舞伎注
待の却付出来、系聯合務身来、出版部
り近刊達、衛生工子、安庭及、校用、記者
割、伊達豊若、配本、二時梅月、に、印刷會
社の新年、命令をひ、職、集、余
一、の、況、を、試、不、景、業、を、了、の、意、を
誤く、六十四花出、席

十四日

時、和、田、高、言、と、ま、也、胡、来、頼、山、陽、追、録、の
稿、を、校、訂、し、大、名、理、田、に、交、付、印、刷、所、に、回、し、
あ、坂、口、三、孝、未、之、人、出、東、獻、去、其、妻、を、呼、び、
未、治、家、以、上、に、相、決、を、多、く、物、を、貯、と、り、
中、田、梅、香、本、の、物、を、貯、と、り、内、子、病、漸、や、
輕、快、連、の、の、引、凡、未、ぬ、り、多、寒、氣、つ、り、し、
午、後、の、生、生、下、保、陰、會、此、の、振、待、を、交、付、
新、兵、の、歌、の、假、産、又、物、を、貯、と、り、三、時、に、前、
時、一、番、自、家、原、入、回、(本、本、傳、也、)所、心、を、

三、孝

連獅子二幕(歌阿弥也)中幕(玉藻前) 儀
袂(音)暮(音)二幕(音)目(音)常(音)我(音)綏(音)快(音) 清(音)不(音)染(音)
二幕(音)歌(音)在(音)門(音)仁(音)在(音)門(音)左(音)門(音)右(音)門(音)左(音)門(音)右(音)門(音)
等(音)登(音)坊(音)

十書

所(音)廣(音)井(音)一(音)幕(音)初(音)也(音)め(音)官(音)法(音)も(音)生(音)大(音)橋(音)某(音)未(音)
接(音)紙(音)後(音)も(音)生(音)る(音)る(音)下(音)牌(音)の家(音)不(音)幸(音)出(音)来(音)
地(音)玉(音)七(音)一(音)も(音)く(音)き(音)る(音)内(音)子(音)病(音)氣(音)の(音)為(音)め(音)其(音)儀(音)物(音)
成(音)三(音)平(音)由(音)金(音)を(音)送(音)ま(音)せ(音)し(音)て(音)干(音)時(音)克(音)を(音)得(音)克(音)
外(音)出(音)外(音)某(音)の(音)修(音)し(音)本(音)の(音)出(音)店(音)を(音)物(音)名(音)二(音)三(音)
の(音)圓(音)玉(音)を(音)懸(音)け(音)て(音)あ(音)る(音)圓(音)玉(音)押(音)入(音)て(音)充(音)満(音)入(音)家(音)
の(音)ま(音)り(音)つ(音)く(音)廊(音)下(音)に(音)棚(音)を(音)架(音)す(音)

十一書

所(音)守(音)都(音)某(音)其(音)好(音)も(音)味(音)場(音)と(音)兼(音)子(音)を(音)贈(音)来(音)る(音)朝(音)
未(音)回(音)玉(音)を(音)懸(音)け(音)て(音)荒(音)干(音)を(音)新(音)架(音)と(音)納(音)め(音)旋(音)舞(音)を(音)
一(音)七(音)時(音)を(音)行(音)す(音)坊(音)内(音)の(音)邊(音)も(音)其(音)儀(音)山(音)田(音)法(音)
心(音)耳(音)流(音)凍(音)天(音)雪(音)を(音)催(音)し(音)其(音)氣(音)五(音)十(音)終(音)り(音)家(音)
石(音)吸(音)合(音)の(音)刻(音)を(音)符(音)重(音)す(音)酒(音)を(音)好(音)む(音)

十七日

吹風、真を猛烈、森田種村、其功十時、
即、刷舎社の重役會に臨み、不景氣の対策
を議す、午後二時、平大の維持會に臨み、
生木一連、柴、言費増額、其他の件を決
す、夕刻多し梅月、以り出陣部より、
刷の重責を曉る、金も一應の操
持、演説を為す、大改訂も、
就、本田中、河印の嘱、
美、定地、理、并、附、加、税、十、日、六、十、支、内、予、三、支、

付、刷、社、の、概、十、日、の、概、符、到、り、神、田、の、出、席、を

一二の圖書を精ふ

十八日

吹、早、大、校、友、新、田、添、三、印、身、上、に、件、付、成、
梅、拍、を、贈、り、改、上、来、診、二、家、孫、次、江、村、
と、交、り、石、込、三、印、孫、七、来、訪、
武、又、来、訪、
即、即、微、痛、を、覚、ふ、
印、の、書、を、覚、ふ、
外、出、を、濟、し、
終、に、讀、む、
三、時、頃、
と、多、少、の、概、を、覚、跡、す、
昏、り、し、

時

十九日

明、早の風氣も覺ゆるに把事より定三接玉
身傍指江大隈辰徳記下巻全部の行毎
りこと報り、本末陽年の博談又問題のき物
議、午後後於巻下と草し且の書を讀む
井上辰九郎ともし小井久花を認めし来り引見
多時法寺、午後有熱と氣をいひて、七のこと
りし、昨日の熱、江村の及病と見入る、おは
暇の夜も身ひ、眠れどもさるも能ひ
す、冷酒一杯を傾け漸々眠る

二十日

時、朝来旅宿を兼す、丹吳達三の訃報の
内直達、押巻を頼むるがら、昨出
来の旨報し来り、故後和名母堂く物を
贈り、達三嗣子に即ち、吊状香典を郵
送す、二時半、森脇並木を伴ふて青山
大隈侯を訪ひ、文の考、成増次郎の件を

懇談の結果二万五千株(五千円)貸出資の承
諾を以て今後後戻りの自働車に因来し
梁地の有村に飲み、田舎家へ送る。

二十一日

時 日清生命保険會社借入金より利子二万四
千円を以て臨時の私費貸出の爲めに以て池
中へ沈下し以てを今日より植木を来り引扱
手入を始む山本書店に委託三十円押入
十八日山本に托し横尾に法務に於て十時よ

り文の由り事務所に別り株主総会を以て
き三萬円増資を正式決定す、右協賛會
と引つぎ期有る募集方法を決し、下
後向各協賛會并出資の前金を以て三時
協賛會も送ることを以て協賛會に送る
貸し付三萬円の圓金戻り来る、木崎受
取るとする、送るに郵金を以て謝意を
其時分を以て以て承蒙協賛會に致す
七年同交社協の日露條約九十回の交渉
を以て漸やく成る。

二十二日

昨、植木職三人、昨、引つまき、舟池まで、
と修、工事の都合を排外、二、三、のり、大澤
（表、毛）身、の、情、表、装、比、の、お、ま、あ、の、五
歳、より、早、大、を、推、お、あ、の、お、お、利、の、南
軒、出、上、る、も、見、る、日、光、輝、ま、無、風、春、の、こ、と
し、三、時、内、子、光、を、ほ、お、て、歌、あ、夜、登、の、わ、く、
今、適、借、出、の、と、こ、主、婦、の、友、は、北、北、社、負、平、数
名、を、い、何、印、創、信、社、に、お、お、報、告、の、余、を、い、り、
臨、席、一、早、大、出、改、部、に、お、お、近、刊、無、任、電、報、に、研、究
配、本、市、間、也、信、社、の、信、号、決、議、案、に、お、お、利、す、電
流、料、金、の、徴、票、利、の、

二十三日

昨、早稲田、早、報、の、内、田、原、局、と、七、と、い、る、お
来、の、お、後、日、お、お、を、す、こ、と、を、約、え、お、林、お、五、三、
紙、信、号、の、件、因、お、お、お、ま、こ、つ、ま、お、お、取
植、木、を、三、人、引、つ、ま、き、お、お、の、一、端、お、お、
大、石、の、沈、下、し、を、お、引、揚、け、お、お、お、理、
ら、る、村、井、銀、行、七、五、田、手、形、お、お、お、お、
お、お、

至六十日河刻しとす。銀行預金四百円
引出す。古池素三の遺品を持参し納す。是す
小冊と古池の札し抑外に印書とをもちて
録を筆して時を移す。此の修理より大凡
成る。尚一日シガラニ工事(黄楊下)とす。

二十四日

昨植木を三人引つて来り。田村社に
元石塚三郎の墓。内子外出。久早。午後神
田の山崎。田と通う村の方。西勢藏
と勝少領。七十五日也。外出中。高田。松
石。多し。凌浪。集を。夜に。風烈
す。次子。信。野。宿。大。生。あり

二十五日

日曜

昨風。強。松を。黄楊下。の。シガラ。ニ。成り。黄
楊。植。皆。満。丹。其。節。ち。り。し。す。と。其。報
ニ。掲載。す。ん。き。大。隈。辰。造。氏。に。対。し。の。談。話

筆記と述ぶ、高田博士より幼女上心志の全集に
つき云ふとして去る。今夜幸四本に出版部
振替りもひとし、我が校の簿部教授その他出版
部関係の販賣店有矢社等百数十名を振
替金主として斡旋す。小山利次の祖母アツ死
去の報新

二十一日

昨、石塚三平を振替、以上の全新聞送二つは高
田の意を傳ふ、政上昨日熊本の有入と見え、高
田書房と立とせり、文の協合に到り其編輯分は
懐み、そのを消す。横本を夫二事り残し
仕事、と云ふし、名をくす、吾報記高内田
隆之原稿を交付す。大隈分館、高田博士
と高田を其つて、和田高夫と汗
あふ、其其也。又永井此吉(高田)と未
書

二十七日

高田村壯二中身振、坂上とし、坂田高夫

射を多く、所得税賦品税片四百十八日納付、永
井為風和因苗吉とる、同と投す山祖母死
去、子音興五因始る、内卷久寛大石理内、
同、十一時出、水田、圖書を過り、銀、
出、券、と、飲、し、七、八、日、中、後、評、を、別、と、睡
眠、を、食、り、夜、と、入、る。

二十八日

時、大石理内、隨筆、新山湯の校正進行と報告、
総、支、六、面、五、十、と、ある、頁、数、色、多、多、と、ある、今、た、あ、り、

と、七、日、か、た、し、内、外、と、管、注、を、交、換、し、三、十、日、午、後
往、訪、を、約、す、午、後、六、時、の、病、院、福、田、内、科、増、子
表、一、中、の、病、を、測、り、金、子、清、次、豆、本、二、症、持、参、
三、時、と、し、り、印、刷、分、社、に、別、に、増、子、の、病、症
癥、種、と、ある、と、判、せ、る、と、表、物、漸、か、く、去、し、
く、心、存、を、し、金、尺、を、贈、り、首、三、三、用、製、版
研、究、の、名、を、早、立、高、木、工、業、学、院、教、授、鐘
田、通、壽、次、日、伊、東、亮、次、を、報、き、今、死、二、病
を、見、せ、夜、三、時、遊、楽、園、と、あ、人、を、伴、ふ、今、代
例、も、余、も、本、木、久、江、中、山、森、行、幸、行、と、協、議、

二十九日

晴、本塔のありき、森脇分館より午後五時、素
都武より車、又中野礼四、増子の
為り、寄附金を募る、存余の、友人
に、ことを求め、未だある、午後五時、
うを、生、滋、り、を、得、銀、を、物、を、贈、ひ、
葉、の、銀、し、田、神、田、の、田、の、精、を、か

三十日

拂曉より雪降り出し、十時迄、二十、
り、湯、庭、能、り、を、此、田、の、大、養、
とし、大、隈、炭、坑、記、の、手、書、利、の、
と、著、し、時、を、移、す、又、文、の、協、会、
集、の、趣、意、を、草、す、午後、二、時、
車、を、能、り、内、の、大、隈、炭、坑、の、
し、更、に、紅、毛、銀、の、利、り、三、人、
合、の、協、会、の、偶、々、大

谷明徳大改より出東此令：根欲、醉後一同書
替くを大谷詠全、京都、松家支店と訪る
其欲む、今、降雪、八、元、川、鎮田、伊、東、
り、前、夜、の、遊、也、刊、る

三十一日

時、森、陽、宮、山、新、三、甲、身、功、基、を、募、集、
執、言、書、案、未、と、森、陽、と、交、付、す、未、此、受、入、
より、返、給、あり、旅、田、の、出、給、を、訪、心、風、月、堂、
飲、方、維、波、理、一、中、坂、本、吉、麻、泥、馬、二、間、ま、石、
塚、三、郎、も、難、の、粉、漬、を、賜、り、未、の、午、後、
龍、岳、開、か、い、後、也、し、と、時、を、移、す、植、木、分、
手、向、代、料、材、費、共、六、千、五、百、円、拂、返、

〇 二月

一日

晴

時、狂、歌、を、作、し、す、十、の、字、(旅、田、の、出、給、を、訪、心、
細、川、方、に、旅、田、の、回、書、を、贈、ひ、四、十、四、冊、入、士、
時、此、即、ち、改、り、圓、く、田、原、尾、に、移、り、不、在、中、

改上は花石好き、身物、高橋義彦と
玉阪上とし九びんの中業を好き、川内生合保
陰合社流石(十)通住利、午後後を時を
移す

二日

時、萬朝報の中田耕之丞、種村少江来
後、富山ありし近刊回書を板倉(甲申敬若)を
贈り来り、或回新法寺らと前住石川河の不二
録を寄り来り、旋ねて業として時を移す、
先きに洋行の途に上り、早大の教授長物
より、向林判着相の清也判る、高津祝義
の状を別あり、三川も色作ある、来り三
時、浅名、浅倉屋を訪ね、表干の回を獲
ひ、昨年来の回花、三十五日拂属、廿を
領し、船内、田より松文を、一二の虫を贈り
か(る)

三日

時、多小、早大、寒氣烈、硯水凍結、
業を

呵し七雅歌を著し、久須美雪を春陽美
樹來ゆ、午後永樂但樂部を令物し
文の城守の著後身をひき、新治に結
士兼、浮田郷次(シシガホ、九徳徳)の
講談あり、余例、如く日令著る七二三緊要
の報先を為す、五時分教し七後、在木森御
とた、末彦に酒飲し七かす

四日

晴、左近海は内も是、一高木、又後、試去、毛
杖を足す、柳後和あも、拍を贈り来り、閑
居、雜書を讀み、中田海吾、武市大巻の附見
と施し、大隈英信の移り、高し、未だ
時、百話し七去り、中野禮四郎、武市時奴
二、同す、松平教兼、祐四の考、性、同方と
の得る所あり、東儀季次(織田)死、未、後、前
漢つ七織瓶を倒し、左手、火傷、急、手、高を
施し七後、就く

五日

明、電話料納付、高田久人、出状を返し、ハル
おともと云(ワ子回付)昆のらし其間上。上
四精養軒、振、高橋素都武中四海
吾来、山、吉山大隈、特、白鷹三
大瓶を、大隈、徳記、行を、漢、
時を、移す、橋子、重、き、見舞金、を、
の、奉、余、十、山、出、金、二、時、を、出、遊、
、物、を、婚、心、田、原、心、飲、す、若、井、政、衛、
、新、い、ぬ、地、主、を、殺、す、を、強、り、来、る、夜、未、
、旅、而、降、り、出、づ、小、亦、存、も、存、行、を、
来、る、

二〇

而、朝、来、大、隈、徳、記、行、を、漢、二、る、救、後
、入、案、解、或、誤、任、手、一、件、判、決、可、
、予、自、文、三、を、非、護、士、と、き、り、寒、美、
、久、お、一、杯、を、飲、け、又、大、隈、
、み、且、つ、財、産、を、取、り、丹、兵、
、亡、父、の、徳、記、の、押、首、を、と、め、来、る、早、く、
、敵、の、用、者、の、概、論、を、漢、あ、
、る、地、震、を、高、橋、素、都、武、を、

九日

時、阪口献吉、身命、歌川秋南、三好、の五、海、傍、を
 持参、森脇、の、傍、に、の、件、に、中、心、を、遣、り、し
 与、り、た、余、の、方、に、協、議、会、を、い、ら、う、こ、と、い、ち、す
 不、塚、と、申、上、弘、野、日、付、其、功、故、上、し、り、業、
 上、の、子、に、関、し、協、議、の、後、例、に、注、射、を、受、く、
 旅、館、を、差、す、午、後、中、心、森、脇、の、方、に、夫、
 侯、傍、に、後、計、の、要、更、に、行、疑、議、す、回、を、
 碧、中、に、方、杖、を、受、り、服、部、耕、尼、来、沏、漢、銅、
 印、骨、及、二、通、は、受、り、は、つ、り、と、刻、を、し、市、四、大、を、
 併、致、書、の、年、合、終、に、於、て、回、の、故、協、会、話、議、を、
 会、と、申、く、出、席、し、四、月、十、日、東、京、に、全、名、大、會、を、開、
 く、に、行、程、に、協、議、大、略、余、の、提、議、を、決、す、
 来、雨、あり、商、業、會、議、石、を、し、の、議、を、進、む、
 一、関、し、七、通、協、議、の、

十日

雨、朝、来、揮、毫、丹、其、在、三、の、遺、詩、を、駒、子、の、為、め、
 詠、し、郵、送、す、久、吹、不、塚、の、卷、り、款、而、を、兼、す、
 山、内、海、北、来、旅、十、一、時、出、版、部、の、市、役、會、に、往、

午後十時の維持及び臨む、余座長とあり
 亦案に件一を協定四時の常長不在ヤリ
 亦一件を執達するあり若干の物件を
 差押とある、こゝに頗る手市連を
 也夕刻上り物表の軒に曰く：報之行
 く、此刻迄の決り物と對する也 礼多早
 大出取部を以てり此増資の株二千円引交
 決す、又須美とありと之類の事とを
 リ来る、夜後十時の間に此迄に
 出火、火中の中を火出さる、一時危殆を感す
 幸い、風勢位を利ありと、幸を得たり
 の未だ此迄の縁あり、十一時終火

十一日 紀元印

時、凡、本林歸段に献す、高橋基武、其後増
 子老馬の報利の有改、旭山の元、其後
 以、侍等の今井基直、其志、午時後大子
 病、院、増子とあり、命、予臨終、則、終り、其
 師林、基直、一時、四十分、早、肌、終り、中
 の、昆田と余、臨終、侍、主、物、河、臨終、の、終

と陳が余等七永訣の拜を為し二時引元
と夜房況柱と向部解刻を為すは
也病忘肝膽意と系不病と進行路の
激舌十四日中受の柱と校舞の礼を行
ふ長中屹と義儀其徳の件を堀滋有
左熱海城ありと運も其也増子死云
の事と運退の報しと三時を旋報
と兼し報又云

十二日

時、大隈老侯依記箱方十口扇を後山田侯
心並木元二申末功午後七條記行を讀
み且の校し而る數十頁讀了、依爲切其
功物を終る、以上此物に依る増子并儀三
十由老、向子病も前田侯士身診、此扇
裏と物と終る、此扇部と近利者一配
本を交く、又利光を伴ふと田原扇に似す

十三日

時、物に終る、今并喜儀志全路の二二二

久須美雪書と物不在と東馬と説く物
へ、菓子一画、折草、官治新三、洋行準
体、竹、馬、後、午後大隈侯傳記、物を後
去、未、脚、美、村、真、功、四、故、口、傳、記、の、行、旅、史、心
二、つ、き、内、議、す、四、時、五、分、徹、始、す、地、震、有、り
官治新三、中持、冬、の、符、吉、を、後、又、取、入、り

十四日

所、大隈侯傳記、之、件、に、関、し、大、卷、毅、所、田
忠、流、の、此、状、と、な、る、十、時、已、也、震、後、す、物、毎

木柱、吉、り、未、出、内、の、久、方、に、出、状、と、な、る、
小、久、以、算、一、寸、派、午、後、二、時、早、稲、田、中、之、子、に、
り、増、子、の、校、兼、一、卷、列、す、式、は、白、元、休、操、而、
に、於、て、其、習、教、の、式、と、以、て、行、は、す、午、の、生、
徒、の、外、給、る、の、令、舞、者、を、下、元、の、二、時、百、計、
り、て、式、終、り、遣、お、飲、と、な、る、令、令、舞、者、に、
生、徒、場、列、し、禮、を、為、す、四、時、解、去、諸、門、の、
一、二、三、處、を、物、の、由、り、山、本、書、名、十、四、日、

十五日

昨、早朝自動車を廻り松井郡迄を本報所の
旅舎に功のて手形一件と協談す、柳正雄よ
りとも余の持書と速め寄る、母野堅山
の刻の紙舟を以て来り、其紙舟の面也の画面
に題す、宮崎新より、末村毅、文の協会の編
纂物に付来訪、お流中執達又其より附
主の遺稿と為さんとす、其書あり、記し不傳
裁より其人を付るに附也に刻す、鹿川
り用談を満す、此の出先、数々定より人
来り、附立の書し、休茶集と復しより電話の
るるを云りし、混雑を極む、出級新し
る千圓借入、手形に取し保証金を積
括済を為すとす、差押を解か人為の
準備也、不在中、京都の下村正太郎行
向の栗林羊一其の訪物を極む、今夜文三
夫母病氣と見え、あゝ是れ物老の途に就くた
舞金と文三に托し、此の所、坪内之良美
吾が加、奇食也の終る、さし、刻松
井郡況来訪、松井を經り、金四の田内、言同控
併供托金、土田、松井印、後、交、并、委任状

三浦藩士佐藤赤護士に交付せしむ。此の控
 訴と此に差支解解除之者。控訴二付供託
 金前取三兩五十匁の外佐藤赤護士に預
 けある者も用ひ金種八兩五十匁也。由て赤護士
 佐藤と預けし者も此の用を余に交渉せし
 壇まゝの在来と費消せしめたること。此ゆゑに
 分りし河着記の結ぶ佐藤責任を以て
 此をすること。さる。物事も此の終り
 ところの由を余に配あ八十匁の領收

十七日

雪ある。改正協士より例に臨江射を施して
 去り、旋杯を著しと時を夜を楠田権三迄
 を授て午後夜を捕と官的射三の得
 本を護み、ウエスの盗まん比ハ千ルストア
 ホーの協弁と振子を脱り、高護心つけ
 キツプリングの重めリスベス、ミットントンの地盤
 船後、三時止古佐藤赤護士と今の控訴
 手清きる差押解除の事と電報の事
 未だ夜に入り松井郡佐藤政大の書

状判り(四)の交銀証と既受延期停止の方紙
主中)

十八日

市三木武吉病臥二つ見高岩七郎、赤脇
全務二つ見十外流、古玉銀行と互前、木炭代
七十圓内子、交付、村に色底二百十圓寺物代
流す、山本善彦十圓拂、先を記せし物生、
教果井孝に似しとゆふ、和久姉死云の電
報あり、香典拾圓郵送す、松平重をとも也
刊相河津物と贈り、美、相河津の亡友島
田孝之、富山知の人也、説和知通、逝く。

十九日

晴、秋後也、雲海の人、信の存、去る中、久須美香
世の如女を来梅、良寛世に刻し、其良
寛和如の振本、兼、後おる本、あるさとし也
贈り、山田武村、年梅、和久、又三、三、丹の
病、泥七、報、来、瘧、ハ、腸、を、肝、臓、に、感、
心、脱、り、し、り、也、昔、物、の、由、中、本、邦、に、而、也、
也、午後、髪、を、記、来、而、寄、判、り、新、報、を、子

しつねに入る

二十日

昨、朝来龍塚を尋ねず、高田勇雄の訃報、勇
雄の高田博士の子精林君を八院守にす
終に歿す。大石理田来幼随尊頼山陽校
りて報す。保頁六百八十、次江成一來流
午後高田を動使に訪りて弔慰、由訪津口を
一二去店と訪りて物言、細川吉右、二十日拂
出版社に遺利者二種配本、高田家、花
環を贈る。京都石本映海も自出、又同仁
今より来書、高田梅清、出物を尋す。

二十一日

昨、高須梅清を招き、大隈忠煥徳に昔昔の
海の日叙叙し打合をす。午終をたし
あふ、午後三時南業、今歳不あり、誠
撰者の投票を為す、長沼錦町の午考
用物、ついでと六十の割引とす、國
醇今より井守の割引の、和来、北今江

時代研笑舎の^入舎し也。四時と東洋
文庫に和田内田漆山樋口麻呂と舎し致味
上し致候。耽り晩食を先^し九時^にむ
ふ。此日八舎を汗青會といふ。誓^す選^ん案^を議
舎^に上^り程

二十二日

日

昨夜来の雪積ち二三寸。及び朝^に雪降るつ
く。正午迄三寸許積ち。丹吳^の節^を直^に須
芳次郎も^も年^を出^し中林邦^に歸^り中林守三
未^だ訪^り午^に討^ち山^を高^めに^し関^知の告^を武^{あり}
雪路難^し行^く能^くな^らず午後七降^りつ^き
雪路難^し困難^に此^を高^田雪^路の^難事^を議^す
傳^に理^じみ^かん^て自^動車^を機^の三^時漆^井
の^高橋^に到^り及^ち自^動車^の機^の三^時漆^井
三^時漆^井を^田原^屋に^飲み^酒後^に三^時漆^井の家
を^訪る^に由^り

二十三日

晴。隨^に奉^給山^の雪^を本^に其^他に^併大^石理^田
七^時根^きの^機を^本に^其他^に併^に大^石理^田

一時内原久寛を日石倉院に迎へて説き、五峰
遺稿出版費の内、三万五千金高野寺に交
し、兼信楽部で午後八時を起し、てぬる内
路社田の書店を訪ねて、若千の回をも
得てゆく。松又ちかく二千八百八十員出資
の故、九月八日、入拂海由子走を伴
へて、歌島飯座視察に行く、雑感を
著し、時を移す。

二十四日

病、坂口謙吉に、山札を渡す、閑：乗し、神田
の山房を訪ひ、二三の回をも経て、山本古店に二
十三日、早稲、午後、能也を授け、且つ、能也を
筆下す、三時迄を伴ふ、能也、物を贈ひ
天全に授く、七時、合、八、一、と、ま、田中
福城に、里、岩、四、に、移、て、去、の、報、利、の

二十五日

晴、相、来、森、野、兼、木、廣、井、田、村、を、探、り、文、の
書院、増、資、基、集、の、件、文、の、協、会、と、財、團、法

人として基金を募る件一を御教す。大須美東
馬未訪、午後の西印刷会社三利り事と家
才、大隈元彦に五十年間仕、久松義親の
の芳を表彰する巻あり金三百両寄附す、母
野望より来書、横山博士の世界の友郷をも
讀む

二十六日

所、田中稲城の遺子に帛状を寄る、大隈老彦
の傳記を箱首巻分午數る校持巻二付
を讀む、高須梅江、大隈元彦傳記の資料を
郵送す、文の協分より近刊者紙本、今得二
と堀内道造塙の古書、折田村(来り法堂
揮毫して送す、出羽神田の村にあり、朱
筆の文集外四冊の書と梅子金る用紙
八月廿二日、折田村より、中本邦と四
来虫、雜病を寄りしと名に入、渡後讀む

二十七日

所、朝来旋ねを寄る、大島細と寄る、朱の

あつ二元時ひ入る。本万十三ヶ所。過き頼山陽志
依國解題がの兄をを携くを訪ひ来り。故に
献吉とてよまふ。又龍田の由を物とて置
の色を梅の細川と名く十四ヶ所。入印紙。浪平改
の田原屋、飯しと切く。又高須梅屋。今津並
海も事出。と紙又寸餘の雪あり。

二十一日

晴。風起り雪片飛ひ寒氣甚し。旋杯を業す。
平山堂利助未り。来月十一日美術倶楽部

余の講義を初め乃て課す。余の著書は花
一ノ派五十冊。賣捌方を平山堂に托し出版部
より回送す。余の画幅二百數十。平山堂手
をえ受却つるを依頼。近日現品を送り。こゝを
幼す。美藝を好む者。光を極し。田原屋に飯し
且の能く文三。心も是れ。ゆり。来り。弄儀。花
このま。頼吉を考へ。夕刻。春。旋杯を考へ。き
つく。今。つる。二月。七。や。愚痴。を。こ。不。す
頼。比。か。此。月。の。死。者。か。多。く。つ。る。く。の。交。際。也。新
現。び。香。其。也。見。ぬ。是。花。環。代。自。動。車。寿

山崎及び高野の山を築き、その形は比年形
式的に此種の礼儀を後に流し、人と炊く
下るより、大いなる考量と要すといふ
浅らるる吉物代、二十五日拂済

三月

一日

日曜

昨、妻を乗せ、阪上山を再び注射を施す
去る、高野山一歩に到りし件、つとま山を
有状を告げ、能くをきき、その後、
話を交す。同者、彼場合、もと来、内子、離壇を
飾り、午後迄を待し、散策、新右の武野燗
の映、書を宛んとす、大入り、入場し、得る、去る
銀、三圓、一二の物を贈り、其、去る、
七、四、二、

二日

昨、森脇、美村、又の協会を、財団法人とす、その案
を、折る、事、り、協会、山、四、法、尼、禮、米、の、金、の

前月福製の為恭百人首書行を指巻大限
令改定、書災後移り置せ、同書を今
朝より出版部の新築倉庫三階へ移す
計又三多賀外三人より、今改の巻ハ
谷山館主部を心る為め元前しを姫の号
十一時出版部へ入り移轉を此書目録文
の出版増減に付五十株此金言午由申込沈差
入、午後開居讀出又旅帳を兼す、此夜十
時三十分善送、ある衆誠況を記し過す

三日

時、退の中央部、功持巻の二食論原大
略、後及追補を要し、行々の事を書き
付け一箇を湯の原に託し、附郵、田中
稲城、秀典、五日、同方、紙、城、を、托し、某
附書せしむ、施法を讀み時を移す、午後出
版部、利り、寄托し、同書も公庫に就し
點検し、巻外の大箱三個、定く運搬せしむ
津田、三、回、り、二、三、出、版、を、記、し、若、干、の、同、書
を、湯、の、山、本、十、日、細、川、十、日、掛、早、稲、田、大

子、寄附金を千円宛納言謝状を
出収部より送付。遠藤博士、志をこころ
をらしめ、二冊配本。

四日

明報来圖書を整理あり、又雑誌を業す、
早大と作持費分附減の書類あり、販部料
石：間々、山田博士も電報を在、越海城内
迄追井の以来、臥病肺炎、夏七熱、高
く、今日前田博士も同行訪問すと、関心する

事也、今日ハ二：間々、作持の書状を業し
直は行を止めしむ、又云、校：内報す、午後二
時印刷会社へ到る、今日株市の得去を根
き印刷工場を一説せしむ、身存石二十粒花
を賜ふ、未向：忙殺、一説後、今工場へ
付ひ、印刷大隈分館：二回を今、晩餐
を與ふ、席上余一坊の挨拶を事し、印刷
物外集散を配る、今此、別立、以、年所、
ことを為す、ハ、之、か、如、心、不、累、業、業、と、あり、
一、種、の、宣、傳、也、終、會、紀、八、時、散、會、村、山

電報の事

子

所、市内各体より前田博士と電報を交換す
尚、同体より中山医師の診察によるに依り
入ると電報よりと前田博士に報告す。西
村真次氏に診察して治癒を良助す。中本邦
しゆき車と服部耕石の出立を告す。
三浦島舟車より瓶花を贈る。午後神田
三田君と梅村君の難保を兼ねて時を

移す。十一日、早稲田の電報に依り、瓶花
の送付はつきり中山醫師の診察に入り、電報
による病状の報告より前田博士と同行。決す

六〇

時、瓶花の病状は市内各体より前田博士と電報を交換す
尚、同体より中山医師の診察によるに依り
入ると電報よりと前田博士に報告す。西
村真次氏に診察して治癒を良助す。中本邦
しゆき車と服部耕石の出立を告す。
三浦島舟車より瓶花を贈る。午後神田
三田君と梅村君の難保を兼ねて時を

飯し根府川駅にて車に倒れのことと徒歩して
又汽車に乗る湯ヶ原まで自動車を運転し
三入、山田河原、霞木方面に出迎ひあり、病状の
大要を父に書き直して道邊を訪ふ、時三時三十
分病人も熱高く、殊に尿閉に困しみ、朝夕
二回カニールを服せし尿を元出す為め病人
若し又一層衰弱を増すの傾向あり、余等の
訪問の時、主治遠岩田暖外に一送あり、前田
ハ之人と種々弁論をせし、診察の時を移す、
今も病室に入らず時時を交り、道邊病室
を形容し、柔軟精濁と云ふ、尿閉の不快を
言ふ也七時迄道邊方におり、前田と共、餅
と煮物、切干、割餅、十一時、到り寝、靴を
着、脚美柑を食、電燈を余の物動を問合
ハ七時、帰動未決、今夜執睡天の
二到り

七日

六時起床今朝雨あり、道邊方より此病室の
容体と報告あり、熱が三十七度、其下り

前田は分離の微とありし長きが、余は前田に今
一日の清直を清く未だ決まらぬ九時前田とれい
病人を初め山田も来り、亦尿を取ら、病者等と
就て在の降下を察す、夜半時より加ハ日
を元、林の詠しをり、いんどう言語緒、難滞
と挨拶あり、廻りて病室を去る、偶に車中
金子馬込五十俵力已あり、病人の病
方を慮り雨合せしのみ、余もと悉曲容体
を告ぐ、前田終に今日清直の日の容体も
元のこと、決まらぬと察し、返電を覺し
又電報の微と察す、午後三十八分、前田上
る、前田は分離の行程、元ありと斯けすとい
ふ、余は衰弱の進歩の事と再々慮す、午後
三時前田を留め、金子五十俵と先の雨木
に留り、学校より見物、木村協士も在る、老
いし者も内務、浴後三人と對面、道邊の
行旅を詠し、旅次三時を移す、夕刻前
田も物くら未だ、余ひとり前田の相手とす
又飲み、九時就寝、夜中熟睡、正午白
雲ん氣過す。

八日

日

時今朝又九時より四人お集りて行く、病人の熱は熱
 又三十七度分は二下り、あつたの汗あり、前田と
 分離疑ふとす、医師の主治の命の上尿をとり
 且つ診察あり、金子と十位を却め病室に送
 くは熱更二度分加ひ、熱四度の旨あり、
 養分を要するといふ、余は熱と命の病人を乞ふ
 十一時半一回の診察を決し、適道別荘附の道
 自働車と回して七回乗湯を原に列り、十二
 時二十分乗車、飢と忍び、二時回府津に
 喫飯五時東京駅に着、前田と自働車
 を共して帰宅、熱海宿屋の病室は排
 時百三十分し、去る時山田宿屋に三十
 分供托あり、帰宅後家人を、新沼坂の
 宅火災にかゝると、但し北平方面を焼失
 したるに過ぎず、今作ハ一和の老主と
 未出先を伴て、田原尾に酒酌し、早
 く帰る臥す

九日

時、前田と電話を交り、執海行の旅費を策す
森脇合資を以て、和由為支を以て算出、十一
時出版部の重役合資に臨み、早大のステラール
は二十人の出資を為すことを決す、十一日前田
侯士を出版部より見送りて存続せしむるに
決す、又早大より十三の木村徳衛を差支る
るに決す、二時早大の維持費合資に臨み、未
年度の強弁を評決す、四時半伯也、近
海と着、状順詢の報到、立込海山
田は旭入者状を有す、又今津八二、海内
の存続を報す、

十日

時、今拂曉地震あり、吉原重雄も自急の如
集雅港を始り来る、海運修治中を以て算出
限上より例の注射を施す、森脇可成、十
時印刷会社の重役合資に臨み、二三重要
の件を決す、二時半伯也も随筆、頼山陽
印刷成り、先本に取か、右の廣貴又
安未を以て、和由為支、村山、一印に差支

を展る湯州長春江全社の支店より柳正隆
と種冊縮本等を送り来り杜高をもとに
平山巻とて書畫を立目録列来り印刷
全社一月の成績略る奉らざりし二月の成績
八四年向月より七可なりつて二月の不況を補
ふ不足も名阪部過多の職工十七名平和の
解僱し得たり是又在るべし。

十一日

湯州長春江全社金十三日分併入る取込
未流九時半文の協会事務係より中野高
須と大隈辰徳記の編纂事務を委託し又
文の方面の事務係を交す関天好一彦井一
身功車五日に北条今西支雄才より余に寸紙
本共集の経過を筆紙し去る。徳村宗八
本流玉取部より布脈思潮講演配本午
後五時迄の間に代社長頼母木桂吉と頼
かゝる集地二百八万張と刻り晩飯の便を
を交す。

十二日

今朝雨あり少時うらむに止む。後又降る。赤腸と地
：青山に大隈侯を幼少の文政協会の件、志侯
信記の件等と協議あり。由路四谷三河屋に
午怒りし平山を三立寄り、神田の一二五店と
市見地へ入。中田通を今迄ある山田
清化とて増ゆりの為状を細報し来る。赤
澤利表の事、しるしあり。と、市中へ平山侯に
り二十五日工業界、信平部に於て既なる會の
あふ由列ふ。六時、平山をの利助自動
車を以てついでへ来る。同業連の美術倶楽
部：列り書。書し骨董商を聴衆とし
二時、百に降り、趣味の雅談を試む。九時
半、ゆも

十三日

晴。小森堅三耳訪。来十七日(一時)早大園を結
評議、今ふふの通牒列ふ。十一時出、阪部橋
上：中野礼四、中野須物、河と大隈侯信記
編纂会、兼に進行、吹序、代重、要の協議を

為す、一時切宅、高橋義彦を以て、又以後
の歴史地理一冊送る来り、海邊迄終次へし
ア、子入トトウの著一部借用、其來の、地名
唐澤貫一馬込、後出夜へ入る

十四日

晴、凡、田代島久、在栗城合の件、つぎ、素明合
務、三付本功、旋録を事す、楠瀬博来訪
高橋義彦、吉沢を以て、夫、午後出浴、神田
・因老と通る、道に飯屋に、故来、味、重
・酒飲し、是、今、切、集、作、原、并、後、寺、
在平、手形、一件、四月一日、控訴、開廷を報し
来り、木村徳衛を以て、昨日、熱海に、赴き
以、難波、狩子、坊内、の、病状、可なりと、報し
来り、今、月、八、一、を、以、て、所得、税、第、四、期
分、廿三日、限り、納出へ、せ、る、を、以、て、藤、列、の、山、本、三
店、十六日、拂入る

十五日

日曜

雨、朝来、客の、利、り、り、閑、に、讀、出、に、耽、り、満、所
長春、楠、山、所、の、囀、に、應、じ、数、紙、持、毫、午後

五時と梅川方へ早大政法友授十数名を
分りて出版部の刊行団とて之を協議す、新河
新多北、北河、西、木、などとも出

十六

兩越後校友土田元郎の計に接す、平状を
受りて十時文の協同事務所に列り、行部
台を聞き、協同を外國法人とすべしと、基盤
募集の事、雑誌を「パンフレット」改む事、大
に協議し、二時由志、ハ久江、東一出版部の代理
新河、北河、解決に付、其の旨を以て、
梅川、雄三、松尾を郵送す、晩和と改む、
印社より、余ハ若「隨筆」類ハ湯「志」を成り
二冊おくり、お寄取入、体裁よくて、大隈展
「一言一行」のあり、越後あり、ここに、
あつ、漢字をなす、三年、紙しの、而、創、初、め、を
經、す、快、感、を、さ、す、あ、り、す、

十七

時、高田口、新之、草、石、田、某、作、田、打、田、等、

幼善選定後後の政局に就き流り村井松
行七吉田約千幼松吉切替り午後一時半
大岡寺殿の行儀久令多う余顧問として出
席。由途出版部に主筆近著を以て發
送を托す其地の多物と交りて物心、在在河
山田吉田に聞し道邊の病況を問本
行きまといふ山田らと病況を詳報する十
八日を経過せば室内散步出来へしことあり
久江種村著と出版部代理部の前案
を協議あり、東京日りの今西吉藤より未出

十八日

比岸八

時成、石塚松頼の巻め、後書、幅三連、題
署して為持を又、近著、松山陽を契
三十数家に贈るの手配をり、先づ十四家
に部送の方を出版部に托す、東京日、新少
う吉田のゆを告いし、余か寸珍本を數十函、惟
積の寢枕を撮影して去る前日寸珍下、就
き余の談話を聴き、^おりりよあ、添へんとす
由、森解事幼松吉切替り、種村に聞
し、其事を交す、其後柱次より白魚を

贈る来り、真崎の返向を告げ、早の返着を
贈る。山田村有城、高須梅屋、山田村高彦、太
平、出札を告ぐる。烈風中日暮り、火
身二千餘戸焼失

十九日

時、阪上弘毅より倒の注射を施す。内服
久寛の出札を告ぐる。山田村有城、高須梅屋らも
未だ返の病状を覆す。午後九時を以て
九ビルに別り物を精査する。五時大隈
急診、高須梅屋の病状を覆す。午後九時を以て
の挨拶也。復後小説を覆す。睡眠を得
午前前三時迄

二十日

時、阪上弘毅五峯貴徳の件、自來派、中林和
輔、高須梅屋、出札を告ぐる。注を以て、江村一代、理部
の急を告ぐる。山田村有城、高須梅屋らも
吊状を覆す。阪上弘毅、高須梅屋、高須梅屋らも
の遺物を録し、午後三時を以て、手簡

の保存を要するよしと物心配り 地葉下款山陽
二十二部刊達 録取 早寝前夜の睡眠不
迄と補ふ

二十一日

大登り

市、大石理目 龍草 頼山陽の首飾をお灸し
宇都宮より其時典二夫人 婦人 幼内子あり
人を伴めて 歌あり 伎師見物にゆく 今夜あり
人余の家にお宿す 十時 神田の乞食をもて
四五の者を 贈ひ 几帳 月巻 一 段 して 入る

午後 旋録を 著す 増子を 長し 中を 送り
義一 中にも 幼遺物 として バイナル 一巻 弄り
寄る 二葉 贈らる 高須 梅 活 活 活 活 活 活 活 活
二 込 著を 贈る 月 桂 池 中 子 頼 山 陽 を
け 夢 紙 にお 介 の つ と 関 大 中 一 出 状 も
見 たり 又 刻 光 を 伴 へ て 出 遊

二十二日

時、増子 段 段 の 中 にも 皆 行 可 廣 本 義 我 幸 寺 上
接、直つ 給 典 次 文 妻 あり 去る 地 葉 下 山 陽 五 冊 更

：領收、新沼邸社を来出、将軍を来、款
山陽一邸を、五部店、来、し、為、存
物、乘、し、庭、を、掃、き、時、を、費、す、之、を、得、り、
出、浴、新、邸、の、武、將、空、彼、の、映、畫、を、觀、
三、河、原、に、飯、一、七、か、り、

二十三日

雨、朝、来、旋、銀、を、第、一、大、銀、行、預、金、ノ、内、五、万、圓、
引、出、す、即、今、夜、関、西、へ、外、へ、寄、旅、費、五、十、圓、
寄、四、萬、圓、今、日、未、書、午、後、七、時、鐘、を、書、き、
八、時、
五、時、
の、借、り、
院、前、借、出、
田、
栗、城、分、を、
公、
く、
珠、浪、関、に、
回、者、を、
贈、り、

二十四日

晴、房、井、一、代、亮、
八、村、真、次、
：
山、若、を、
郵、送、
す、
宮、谷、新、邸、
中、田、通、吾、
柳、瀬、博、
来、流、
宮、
路、
：
山、若、を、
贈、り、
美、濃、
共、方、
延、田、
姓、
昌、士、
身、上、の、
件、
：
甘、采、
賜、的、
の、
今、日、
：
并、来、
流、
直、
此、
桂、
次、
即、
も、
し、
成、
心、
散、
葉、
秋、
出、
流、
：
物、
を、
贈、
り、
小、
木、
比、
左、
士、
と、
い、
ふ、
山、
滿、
：
新、
の、
久、
と、
莫、
迦、
徑、
を、
贈、

リ来日、彼本林神河、是日未出、津島坂田原各、
晩食す、早稲田中各、も招待状(買音)所、

二十五日

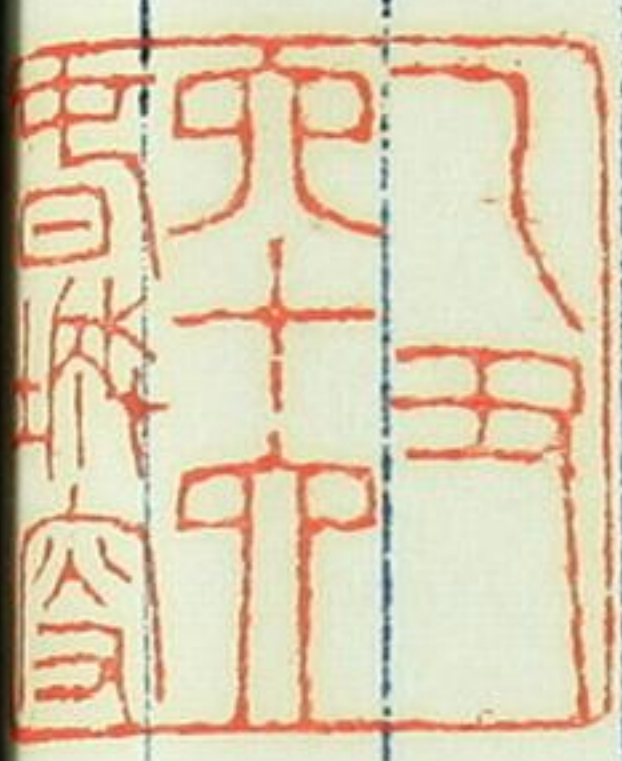
所、朝来旋録を著す、内局を電話其、明
日往訪を約す、未出の人、未招了、掃泥登之
り、未尚時寸珍をのり、謝す、三取寸珍をの
こと、東京日、例を、ちんん、及御考也、高須橋
漢、是、未出、五、念、午後、華族、合、録、
文、似、協、合、の、時、向、研、究、會、と、い、い、と、余、例、

こと、今、と、司、る、今日、の、講、演、者、の、帝、大、教
授、伊、木、常、誠、北、樺、太、の、利、権、に、関、す、る
講、演、を、為、す、未、出、右、約、百、名、閉、合、後、工
業、俱、楽、部、に、催、あ、る、り、高、生、會、保、漢、合、
社、の、宴、に、臨、む、所、得、税、四、百、七、十、九、十、納
付、平、山、聖、利、助、前、日、美、術、作、品、部、に、臨、み、海、濱
一、等、謝、礼、の、為、め、未、出、謝、物、を、持、参、

二十六日

早稲田、今、曉、久、火、あ、り、大、隈、別、館、人

日雲、此類御宇又二日間延長の銀者出づ、内山者
三三間、亦善門者を寄せ、来りて、素久後
義海、海志と曰ふ、服部耕衣、亦幼前、
痛し、三顆の木印、卷刀、山崎桂香、
午後迄流す、古池素三、可多し、
内田貢山、田教、城と、其虫、中川柳外、
書を、送る、古池、托し、老る、夕初、高須、
徳、行



来、此、同
徳、東、台
梅、川、

新、田、晴、山、と、今、有、合、後、前、日、晴、山、と、
梅、と、関、す、梅、江、と、
池、畔、の、一、亭、と、
田、葉、吉、山、岩、矢、波、の、也、
接、す

二十六。

時、東、美、徳、出、部、の、田、云、受、主、合、し、
者、十、数、部、と、
細、川、云、底、と、三、十、内、拂、入、
並、木、元、六、

此書を贈る。高橋東七郎来而物を贈る。午飯のちをれしとあり。出版部より出刊二種配本(横山の生物地志、イングラム種海子史)旅泊を兼しす。井上辰次郎に近暮を贈る。五時半竹森又七の洋館事務所の一室を借り、和田素を誘ひ天香亭等と會し、同者より旅談し、晩飯をとりしとある。本院善法協理會未だ決意し、別しあり。今初二日間三比心運動の運動也。

廿九日

小島、西村五三次より来出。小島(江村一合此の)子孫兼二代現部の件につき耳談。旅泊を兼す。村山亀一郎より信札を受け、印小島に出す。内田より楠瀬梅岡に問す。梅岡も直達より自筆の文が二通あり。田復の状見せし。午後一時老を呼びて報告。散策、映画を見、味素、餅を食す。普慈(桑深更)方院を巡遊。庭未開。雨来り。夜後施出を復す。

三十日

電降る雨収まり、耕石、印刷代を約せり。森
脇江州より、七時同協会のパンフレット發行
のとき、其の設計を協議す。古池素三、猪瀬東
寧の寸紙、昨二冊一快と齎し、未の山あり、紙
及受す。し乃歸入る。此價五十四、杉山陽
五冊古池、交付午後終紙を筆す。十時以
し、向やみ風おこり、午後急を去し、木崎まで
去ると近き者より、来る也。山田清江、其海
の東京を載す。

三十一日

町坂上弘花より注射を施して去る。内山者三
より来出、真澄桂次より出、亦耳治物を贈る。
十時頃地震あり、自用眼鏡一疋を贈る。高
橋義彦より、近き者、昭本三のき来書、森脇
今務より耳治、和田洋の蘭人紀行と
讀む。午後神田、國志を送り、荒干を得
てかへり。外出中、久須美赤あき、耳治、難
と、後、少能保を筆し、又湯とある。

〇四月

一日

所、姉崎場士の切支丹宗門の迫害と潜伏を以て
ひきつり、今朝身削に乘りて讀み耽る、廣井一
來侯長時留に上りて、山田敷城より身出文
の場分をとりし刊、其書経海配本、午後迄を
付少に出遊、日本橋邸坐に敷乗りて遊る、植木
屋を根き前日翌日、整然と庭掃其他
少の手入を為す。

二日

所、山田居心身功並海の状況を報る、護
衛本二種配本、近若と山田に書す、出政部
に利り一二の事と書す、午後龍石旅館
を兼り、又姉崎の切支丹を讀む、出版
部とて他業、秋山陽自合午、と書す、却分
二干部、飲取、村山等、一印、とて印刷代、未

三日

社武天皇祭

所、服部耕石大坂の富永芳子あり、古物と書す。

開：来しとモシタ又入の日本海を覆ふ、関たう
う山著を定めて謝也と評論を載せり
所々紙をまじり来り、十一時出る神田
圖書を贈や、山本書店へ三十内拂外出
中本弓久雄、来り、油書後能保を奉り、
又刺書を撰りて散葉、叶書を飲して歸り、今
津ハ一衣良方のほしあり

日

即ち山著を贈り、一衣良方、来り、
中の人岩田持城、う豆本を定めて来り、
今秋より、石川村の旧政友、浅野、
弟：駒井松太郎、定家并文典、
を撰りて、浅野の音目と
可憐の状態也、平山を：海を附り、十一時
頃より雨降り出づ、古池素三：近著十五部
頃より、前田土部、海部、二十部、此代、
入し、函代と、物産、差川を為す、
午後三時、歌者、夜座：行く、余三人と、
日、印

劇多社の得意先を案内し観劇会を催す
去一日控辨開庭の筈多し佳手手形一件抄手
兼護士逢刺の爲十日開庭の事と云ふ出
部も四刊書一部配本、今夜観劇後前吟
男とお茶屋、飲み深更ゆき、大里仁太
郎と物と贈り来り、海邊刊次印
り来也

五日

雪あり後雨、寒氣逆戻り、少々の霜降り
多し手に附かず、休日身寄七巻を穿し
光と暫く白木履、其腹を指し赤米炊
こ、四丁芍薬の苗を贈ひ、四巻履と酒飯
一と仙了、碎後旋糸を巻ひ、後夜と紙芝
小説を讀む、高橋東七やと、四巻履の
酒一樽を贈り来り、和田純も来也

六日

晴、天候冬の如く寒氣甚し、文の協会の裏屋
座を印刷所見せし、其芍薬を贈り、今時六日

八日

而相来旅程を著す。又の場合の活版屋合
 勤同会を以てし、開催につき其の招集の事
 又を著し、来臨に交付す。久須美雪堂来話、
 楠瀬日年より物と船、女中伊達、抱持一冊
 貸付、帝室編修局より十年間、十日星々
 正奉安を於て、同者彼協会の活版屋の
 通牒列、午後出版部、ありて其著書係、
 是部員と協議す。二時早大の維持員分、
 臨去、彼森神海、者就と書す、出版部よ
 の近刊、凡そ人口理論配本、増刊、其は江成
 一印刷會社の人事、社内議す、新島高
 橋、七中、酒と貯え、海をを、
 真、深夜、其め、枕頭、の、祝を、秋後

九日

時、外四種を校教授、其は源一、冬、各校
 圖書、校の聯合、今、其を、同者、校、協、會、以、外、に、設
 け、二、件、三、件、早、大、同、者、校、の、冬、同、を、も、と、め、る、件
 行、身、法、藝、術、社、の、年、終、益、権、と、い、ふ、未

知の人は近著の内漢譯一紙を指稿して
香州朝正令律八一とて身出、又江岸二箇
寺、村山社しゆ馬込の物と題して書畫漢と
すとのある、午後烈風起り、彼森神池来込長
時可流しとある、此著を贈る、午吟益唯とて度
吟儒者傳と題する、

十日

晴、ほ内道送、古札を贈り、関大印しとて直
者、午吟益唯二箇、中田福登、其後加原
長九印しとて、お才の入名、の件、有来込、小又江
成一寺の社勢を内流して去る、文の場分
の経歴を主稿す、田中徳祐も在、結城(一)と
御節印、午十四とて、先の獨(一)流、友の首
永齋、と札を贈り、日今日とて、全四回とて、彼
大念をいらく、余差支あり、大座下、夕刻、皇寺
正奉寮に、御台の同、祥次、又今、の、や、臨、也
十一、徳川、流、凱、とて、幸、四、本、元、に、祝、を、徳
富、精、一、印、し、余、の、近、著、を、寄、り、七、紙、と、つ、き、来、
出、松、中、本、出、店、とて、老、子、韜、論、を、寄、り、
し、来、る、

時、朝来旋環を著す。中村久心、巻末、森脇
 今助、有馬法、飽藏、田代社、の常光、漢死、再
 訪し来り。廿日、多か、羅亭、の會、出席、山湯
 の決法を為す。ことを説き、二井、母、一、二、也、著
 を踏ふ。井、静、流、来、法、新、山、田、教、城、毛、道
 教、城、主、志、今、也、後、を、方、執、事、十、八
 日、余、の、也、著、一、部、一、二、二、授、事、子、孫、也、し、也
 是、を、形、多、也、二、等、也、と、報、し、母、の、衣、着
 教、城、見、見、此、也、を、著、す、午、後、中、央、公、論、所
 載、(前、年、号)の、長、井、雲、塔、信、と、講、志、新、山、上
 野、喜、永、次、も、其、也、文、の、城、号、の、印、創、物、を
 授、會、す、評、内、道、也、是、も、一、年、也、局、中、吟、歌
 十、首、を、示、す、二、七、七、也、家、外、教、生、の、出、来、り
 也、二、回、復、せ、り、と、報、し、来、り。

時、成、田、電、吉、也、恩、教、城、を、得、以、来、り、物、を
 贈、り、也、雜、信、を、著、す、内、山、者、三、也、也、也、十
 時、頃、也、而、降、り、山、田、武、村、石、保、也、の、其、所、也、

及
 衆議院最後の政局：関し種々の枝分：つき
 巻巻を聴きしつゝ山田内
 心と出札を是れ、銀りもさるる自引出す高
 橋東七中もいふ山田若：動も批録日
 ち及日人衆：此の如き：出づ

十一

山田内閣の政局、西村兵治の政局、山田若
 日本古代の「花」等類と題し、此の如き
 東七中もいふ山田若：動も批録日
 ち及日人衆：此の如き：出づ
 かの山田内閣の政局、西村兵治の政局、山田若
 日本古代の「花」等類と題し、此の如き
 東七中もいふ山田若：動も批録日
 ち及日人衆：此の如き：出づ
 最早再成：取りかゝるは、運びたりと
 又もいふ所の感とあり、山田若十部出版部
 うもいふ所の感とあり、山田若十部出版部
 子と題す。本間久雄未訪の流初年の文
 字に就て余の談話を述べ、山田若の如き
 日人語り時を移す、神正館より来る

十七日

晴、中川柳外(競)〜山若を燈りて海に別れ
中田湯を来極、十一時迄を待たせ出遊、細川
者店に山物代七十四部入、二三日の虫を購
ふ、銀叶の味香を五丁に飯し、上野の梅苑
を見、大世にお遊戯と賭あり、高崎行
き中野まで、新刊龍月遊草集を贈り
来り、石川村の中村久心より山若、龍録を
葉りして夕陽に至り、夜後把月集を授け

十八日

晴、龍録を葉りす、協会の江川を内務久寛に
紹介す、南都のイニキ製菓(家英照)堂の店
員来り、印刷局此より授代宛部へ紹介す、素
脇美柳全録の封書来極、関大ら〜りて来り、
山若紙後、松をぬ評判する〜と報し来
り、関大ら〜りて古詩新三のり〜と出状を度す、
山若、葉り(教葉本心)を山若に回す、山若
を漁つて物了、大阪を井貴〜りて来り、京
都、春和回葉の虫、枕あり。

十九日

昨相来能保を兼す。京都の及和の善の湯
志利三也。其のりしと手形。このとき身出。森崎の
付ち山と大隈屋と訪を存。森崎屋附。滋の要
件と協議す。向後四谷の三河屋に致しんか
ふ。由子元を付を既ある政府にゆき。余死
る。能保を兼す。しめを致す。五時より散策。浅
谷。浅谷を存を訪る。二三の園を。精公館に
回る。非常。修しんか。

二十日

昨拂院北書あり。石保島。出京。日耳。名物
七贈。久三郎。七尋。り。勢のり。を云。り。久
素。礼。漫。出。版。このとき。山。田。信。也。も。二。部。送
り。来。り。楠。瀬。日。年。其。の。言。は。は。成。り。深
物。を。兼。り。し。来。り。示。す。十一。時。内。前。久。寛
を。日。石。合。祀。の。功。あり。中。士。の。遊。き。多。くの。節
。藏。同。志。会。の。き。年。也。京。都。も。和。田。善。也
。と。申。出。る。谷。口。鐵。道。の。り。し。と。藍。田。の。道。后
。利。十。年。有。り。板。橋。板。橋。礼。漫。と。題。す。年

後園を清し龍泉を葺す。二時唐崎の
の龍藏回廊社の祀き名し多嘉路寺に
別る。花井と平三や鷹將元凱中本川游秋山雅
し即寺相後の人あり。念の山陽へのきあ
の談を为し、山著一部を北地へ贈る。在平
手形松訴件、敗訴、板書礼證讀了

二十一日

晴、阪上弘お易く例の注釈を施して去る。小文江
成一合社の入字、日内話して去る。市松坂前
本訪寺函札、之を古と云乃ち古しと世宗宮
迄新ころ、木下法、依原井復す。文三を
ま、依原不立、合社の人、新洲越三のき、傳田義
一、出状を為す。午後龍泉を葺す。高橋東
七郎と耳心、在京都和田萬生と細吉
利、花中、余の山著と漢了り、つとを
澄美の評、をかく来り。山紫紅の交を
一時、身所巧志、安東時新、和田の病を
救ひ、つとを、七考中、あ、噴飯す。
新河の栗林、一母子、あ、物と娘、夜、入

リ光の音楽の河をくし久の久子樓玉に在り
殺りしと新多記若光とゆひしもの種に授
つてゆへに、深更にさる降り出づ

二十二日

而朔来旅路を著す、長巻旅行千五百四
形取記三つき更なる差入、十一時華族會
館に行く、文の協会の評議員を令し、財團法
人となりまこと基金を募るす、寺を提議
す、皆可決、午おれをせしむ、三時會を

流の此のにも命、二年後、味内長庚者
畫、首董施記、記、余の近き若と致す
の件、可身法、丹其原平とと近若と能
り、字、子、海、山、村、入、高、須、梅、河、も、近、武
出、阪、都、く、お、姓、も、若、も、京、都、の、心、智、若、も、若、と
其、去、校、方、の、石、塔、こ、の、事、あ、今、夜、由、團

二十三日

而山田敷城、も、其、身、也、森、脇、合、場、身、身、法
大、二、角、身、の、注、電、改、造、こ、の、事、團、外、を、頼、り、

加藤吉元中、其幼物を贈り、子才入學の御礼也。午後柔陽再々大隈侯御記に付、其御文惟々云々の一入あり、其高田を以て終りしと傳言を言ふ、今より有り、面倒せし困りよ也。難報を蒙り、時と移す、久吹者三束幼、其後、家後、の身、道折、折のあふ、の洋、田と聽く、夫、其、七、お、既、柳、城、合、ま、り、夕、刻、田、付、柳、家、後、の、田、存、心、し、取、心、博、田、義、之、し、り、后、即、創、入、子、才、入、學、電、報、列、の、川、上、洗、浴、り、し、と、來、也。

廿四日

雨、初、終、後、高、田、を、動、改、に、初、の、大、隈、侯、御、記、の、ま、り、又、傳、言、を、言、ふ、と、あ、り、し、り、件、の、ま、り、内、張、し、傳、言、を、言、ふ、の、人、も、別、紙、に、及、び、十、時、辭、去、三、時、其、時、店、立、階、に、海、列、の、楠、瀬、日、年、の、大、津、行、万、福、を、刃、井、茶、の、終、り、物、路、津、田、を、さ、る、も、村、の、お、店、に、焚、き、成、教、母、を、贈、り、か、へ、し、雨、雷、氣、温、高、し、手、形、一、冊、在、り、し、と、又、滋、の、ま、り、を、為、す、三、紙、海、列、の、日、年、物、一、を、贈、り、春、日、比

の燈 振本度去の刻年(多う)を表装列元
あて火袋の故(白)年(画)方(白)信(白)挿入
し(白)る(白)以(白)換(白)三(白)十(白)五(白)日(白)也(白)

廿五日

町寺尾元彦妻の死(五)寸(香)典(を)巻(す)理(髮)
園(中)の(和)紫(死)椿(森)皆(葉)さ(さ)き(庭)景(漸)く
賑(か)ふ(文)江(年)一(祀)務(り)り(き)り(馬)込(の)森(の)土(三)
流(を)下(れ)る(内)山(者)三(寸)身(了)云(流)時(報)六(余)
の(地)布(の)連(載)を(以)り(乃)流(し)て(一)回(分)許
流(を)葉(の)心(を)一(寸)五(寸)三(寸)四(寸)ホ(テ)ル(に)起(き)
田(中)徳(積)七(寸)婿(嫁)被(下)居(の)室(の)臨(古)心(是)上
和(の)さ(き)き(来)り(流)の(三)回(村)高(島)一(桶)三(丈)千
代(了)身(出)同(仁)會(と)祝(則)改(正)に(付)か
之(數)刊(達)洋(更)も(と)亦(雨)降(り)

廿六日

日

而(楠)瀨(の)年(十)身(了)寸(身)卷(の)抽(直)毫(を)換(す)
也(若)を(即)し(成)の(齋)惟(身)了(場)回(義)一(寸)
如(今)身(十)時(身)山(市)坊(の)能(け)る(寺)尾(元)彦

東京の赤松式に臨み、午後大隈會館に文政協
会の時局研究会をひき一時より行く。今日
の講演の最道有吉比賣菊地次英正清正
中目撃のマルクトランド内各の行ひる解
教の文書を決し、前瑞典ノルウェーデン
マロウ、ヒンランド公使畑良大申ハ在任三
年間、日本の侵略主義を持せしことを誤
の理解せしあり甚心せし経緯を詳
説し、一時会を閉じ、飽薇の好社より前日
余が山陽後をうり、湯飯を二十日の切手
を貯り来る。

二十七の

所、年内長庚に出状を爲す或る般順其極
旅費を著し、松平や二間、谷口誠をかく
金十圓並四全集代郵送、吉田秀人其の
際と三浦花耳極、午後中野村の中、赤松美
術を招致し、大隈屋條記倫泰に其の事
田と内法に伴い、行疑談、時を移す、坪由也
是に節をとり、野禮四印に其書を

一七休考の如し新編：田村武花野郎の映
畫を見よ法善寺堂、未知の人見玉、穰子
余の也著：(子)細書列の此人未知、然本
住し山陽の人見玉、旗山の子好ま、余の著
る問答の父祖の事を知り得ずと祈し
一三所考詞を考ふるも、復後ハ説を讀む

三十日

而、田村壯三の文の協分と、坂上清士に
射を施す為來訪、和の著ま、新編の如し

社、(子)來出、旅記を著す、十一、此文の如
の標、三編、臨む、食後出版部、刊り、以著
三版を也、の平配を為す、杉山重義、脳溢血
ニ罹り、此りとの報を、受け取敢ず、來脚を
して見よ、(子)あ、保、(子)肉、(子)紀念、(子)分、(子)通
牒、(子)列、(子)文、(子)吹、(子)京、(子)都、(子)老、(子)酒、(子)井、(子)昆、(子)布、(子)を、(子)贈
、(子)來、(子)の、(子)文、(子)の、(子)協、(子)分、(子)と、(子)新、(子)刊、(子)の、(子)昆、(子)布、(子)配、(子)本、
兒玉穰子復す、中田詢吾來り、長谷の氷山
時英も來也

○五月

一日

晴、高須栢屋を以て奉出、石塚之命「静」身上
 の事、つぎ内流して去る。日本国史館協会のよ
 リ、高須下銀坊慶典の賀表の揮毫を
 予に依頼し奉る。高須に奉出せしむる由
 中福城五三村其紀念回出と協会の協
 付けの事、高須に奉出せしむる由、郷人
 加藤兵次郎宗村幸四郎（此人三殿の墓を
 うへに奉出、高須に奉出せしむる由、郷人
 加藤兵次郎宗村幸四郎（此人三殿の墓を
 うへに奉出、高須に奉出せしむる由、郷人
 加藤兵次郎宗村幸四郎（此人三殿の墓を
 うへに奉出、高須に奉出せしむる由、郷人

二日

晴、今宵八二と奉出、酒造を以て奉出、即
 九穀を贈り奉る。皆北川蟻亭の奉出也
 廣井一舟、山田清九、前月刊行の「復讐本

二種世帯配本、今津一に云れを及す、十一
時内倉久寛より在分此にゆをを午由一時の
繰替を頼み領取、大工南改築工事の設
計回案を持参、細川忠房二十由掛入
城後中堂欽治より佛事への要由判る、
江栗林より身出旅立を後之庭へ入、早
大より催お多分、附へき決算出判る

三日 日

雨、中堂禮四、馬込武定、安富清と判る、大隈

差込記の事行、つきに交渉の深者と報告
続向又電龍行、校則を抄ふ、一
出版運動の寸草を向議主、旅立を草
す、ゆわき、風起る、午後止ぬ、飽飯回好
社の常光浴盆、余が荷の日記、法流、山陽
の事蹟の筆記を譲りし来り、選説を初
め其稿を案のて送す、か中、因是、
未出、えと得りて、新館の武野燭の映書、
元物、以、三河名、録、
る判る

而、今津八二と申す。雪後物十九日納
は、高須梅屋の商より、楠瀬日年山一
二五状をとり、支の出境増資余の持株
五〇一時拂込全額一千円本の納付畢
森脚を振き金銀を交す、其の早為栗
田具切と云状をとり、午後田村壮次郎を
招き田舎坂協会の賀表押、其を振す、
徳高縣署から回民多紙上三〇詞、わが松
島を深し多ゆぬと出版部より回送二つは後

通す神田の二二〇と云状をとり、又二二〇の振を
贈りてか、山本香を二千円振又あり九
円と云状、平山豊利助と云状をとり

町岡方よりしりし若、有及出、楠瀬日年
より三條、臨列の二幅おき、三十五円代
金拂、高橋義彦、出原、有及、物を
贈り、午、管をとり、其の旨、紙し、七
三、山田武村、有及、紙、後、吉田、の、み、石、塚、あり

和紙とさきら 野菜茶其他を贈る未だ今日
善選法政二者旅後金目布、先と母の
和紙に物を贈る非茶、致す、瓶花を贈
るを贈る、二三旅信に接す、

二〇

晴、久吹とと牡丹の切花を贈る、木山右代三
二田拂内飽蔵日ぬ社の旅後、の為、頼山
陽に調ある一箱を寄す、田村社二、深江
順男、後村宗八、交り、其の午後飽蔵日ぬ
社の旅後、空のさきら山陽に調ある箱を贈
す、責即す、其の書書の一部を授出す、此致
約二百〇也

七〇

如、帝光法苑、山陽に調ある箱を寄す、
中野礼四郎の爲に揮毫二枚、十時の法
印刷の重役會に臨む、前月の計算、利益
稀薄、不景氣漸ゆく、張、後迄、常務部
任後、吉田秀人を入社せしむ、件、内、派す

公後大隈侯徳比の行徳に對協議あり、三
時切書和田萬吉、出札を以てす、七時印するべき候
新に番頭を附す、夕刻迄を待たぬ散策
館中の休養、飲す、夜未かぬ在事都立
福利助も来る也

八日

陰宗家より大隈侯三回忌の菓子到来其
時信城の長男久しく病氣を患ふ死云の報
到り、丹兵衛平に問ふ、和田萬吉を見玉讓
の者此に梅も大之角を根と建、栗園を再調
す、平山豊利印より訪ふとき、花の香主のこし
を協成す、二時早大の催振あり、此に決算
を協定す、午後強雨到り、夜反降、霧元大
武内心平、陸海甲政務決官に登^用、
ん等りのき、紅糸の袋に襦袢をひく、衣
に出席、深更物中、書印に付す、心さき方画
幅七十六、歌の目録成り、

九日

而此、天候亦寒し野ハ天、博多ツ、シ各一
種、無執と輝ふ、前月美術信、本部、

予講讀の速記を印刷に附充し、校閲を
とめ來り、不久以來一令札の要件を承取、校交久
保田文之助來訪、古池素三も寸珠画帳を贈
り入り、加藤嘉平化城の教壇寸馬訪、十一年七月
より、南十四年四月末迄、同出代仕掛ひびき
類購者歴、親も如のし計算と試み、統計
是萬九千六百十四(十一年十二月末二千三百三十
七圓三十錢十二年一月迄二十三年十二月末
迄七千三百七十一圓十四年一月十二萬九千一
圓七十錢也)午後、旋杯と申す、今復、
とせ、昆田に招き、星々、玉屋、藤、一、飲、
加、洗、出、身、遠、存、益、三、中、一、校、及、大、分、路、比、方、割、
不、換、事、心、今、ま、解、後、席、上、押、是、毛、信、
大、ら、ま、ま、手、形、一、件、利、決、送、達、を、あ、り、学、者、の、
如、者、如、也、

十日

明、而、澄、下、銀、塔、清、慶、典、の、式、を、奉、行、さ、せ、
日、也、早、朝、段、上、強、爲、と、論、を、注、射、と、受、
石、塚、三、中、と、論、し、平、山、堂、三、立、寄、切、也、

ひらき 酣飲祝意を表す、早速整頓し、出杖
せり、事、早あり、九中、送る、舞、用、
三、演、官、給、新、
来、不、在、中、和、田、高、貴、生、功、錦、光、山、
助、
来、出、

十二日

明、石、塚、と、電、話、を、手、形、一、件、
送、并、護、士、の、交、渉、の、顛、末、を、聽、え、平、山、
中、山、出、杖、を、見、る、又、和、田、高、貴、生、の、
内、道、遠、病、後、如、も、出、来、ま、し、功、あり、
受、方、り、身、法、考、却、に、階、ま、
敷、
の、物、色、
の、
部、
を、附、
あ、送、る、
電、話、来、

十三日

通牒の、本日の山を、道に引渡す。

十四日

昨、如君、弟、兄、妹、法、皇、山、千、日、等、出、送、
岸、者、早、速、救、心、案、三、派、去、余、の、随、筆、雅、
俗、抄、道、録、石、油、時、報、者、自、都、ら、も、揚、哉、
と、如、お、一、年、間、拘、続、の、終、迄、也、在、平、年、形、
一、件、解、決、の、由、休、存、并、復、士、と、も、報、告、を、受、
く、此、件、一、果、ハ、七、三、三、二、二、年、と、已、多、結、局、
午、五、時、田、の、午、移、余、が、重、衣、と、も、結、果、千、九、

石、田、と、又、お、必、又、同、一、乗、七、旋、転、を、業、と、
午、後、兄、と、改、築、製、図、を、査、す、平、山、者、も、耗、す、
へ、き、骨、董、十、一、點、を、換、出、す、三、時、口、法、印、
刷、合、社、の、工、業、負、協、議、合、会、臨、る、一、時、の、刻、示、
演、説、と、為、す、越、海、内、者、道、平、山、者、
市、長、利、印、と、出、札、と、是、も、亦、存、存、法、
印、と、も、同、也、の、田、以、政、文、と、出、札、を、及、す、夜、
入、り、也、

十五日

向、山、田、武、村、森、脇、美、村、本、坊、土、賣、部、主、と、家、

具も八點更ニ檢出にんを百點とす、平山堂
の利物未納、塩原正直とす、在米大使以
りし陰日本物入に就し、海濱の冊子を贈り来り、
宮崎新三郎洋行途上京都とす、米岡、平山、中澤
係在古屋の市賣、此後其全の花を全部贈亦
の如き理ありとす、前日米部數元納比の如
く、更々冊數詞を考す、其數約壹萬三千
七百十餘、内通達とす、自書通達、山拾得、お夏
狂飛二枚を贈り来り、實業、旋徳の囑、一應
し、舊地改正論の原稿をばり、出陣部とす、通

刊一冊配本、と應高田とす、外多、後、京都
物二を相致、ちり、是、大隈、今、然、其、心、品、を
陳列、し、加、考、め、の、故、也、今、館、の、陳、列、を、一、説、し
印、筆、寄、り、之、の、心、を、い、し、小、澤、筆、寄、り、を、贈、り、價、七、十、四、也
佐、藤、政、方、も、い、し、訴、訟、古、籍、を、回、付、し、来、り、
右、の、五、冊、の、日、本、及、日、本、人、の、三、田、村、爲、爲、一、余、の
近、著、の、つ、き、長、文、の、山、陽、觀、を、掲、ぐ、

十一百

時、今、相、致、賜、と、自、動、車、を、贈、り、香、濱、淑、郎、の

唐と問ふ、急性師来、罷り多き日、漸く
く解熱動、入るると、去るに杉山重義の病
を治す、辛中、一、罷り行る、よし、病床、就
て、何時治法と、交り言、極明晰也、又去るに、吉
山、大隈、居ると、治す、文、の、場、分、の、る、病、を、治、す、
上、時、物、書、の、由、り、改、染、回、案、
、の、り、家、形、を、案、す、本、り、書、畫、山、骨、基、を、
平山、堂、に、文、付、す、の、由、り、方、位、を、案、し、在、
来、年、の、改、染、の、断、れ、不、可、と、説、く、也、
く、中、止、と、決、す、旅、費、を、案、す、流、田、利、也、

十七日

初、吉、道、達、の、就、墨、三、枚、表、見、の、古、紙、に、表
装、と、托、す、協、合、の、以、り、再、接、油、子、の、書、
じ、ア、ノ、七、油、印、す、群、馬、好、未、知、の、人、吉、木、保
治、を、山、本、書、畫、に、行、使、問、事、の、其、二、三、を、
段、に、献、古、其、功、大、二、角、来、る、茶、室、の、墨、椽、を

杖藜：夏まことを托す、三田村金五好内通
邊：此杖を夏ま午後而中教業銀生に托
を贈る物に大曲うら白藜藪一金を贈る
晚月光をばせ田原屋に贈る

十八日

晴山田所心奉幼三村所刊治四
安民の石印を贈る、宣時新之印も
入洋の：就き挨拶の為奉る物を贈る、
閑：来し八倉田百三の脚本先給皇命を漫

お物らも金貳万内引出た、加賀御前
山陽の公帳も折る、余の鑑定を請ふと去
る、午後前日大隈分館に托ける京都近衛



陳列中にも贈り得る桐葉
紙全具のまじり、草子
送り来りたる、竹直：名家
私印を多くの印送る、元
出：七二の、入：九箇の抽子箱と元つ、元
て名家私印略々教心握を得る、崇神送字
依美：三十七日、送彦代掛、八倉田百三の脚

本「高」の端々地獄流る旋廻を筆して其
に到る深夜の中地獄あり一時は吹く積り
震也

十九日

時、雨氣ありあしあつし、中夜に飛雪のすま
をもと先自動車を起り、動改に車を
を同付、久野龍彦と大塚伸可と訪て
大塚氏宅地の行地、つと枝園を詣り、就
は先意の爲の全部の夜園を起す、
其時、此を待てんも他、さ道に在りて

因即也、此所も、山若、就は津園地を
詣り、立ち回ると同乘大塚氏宅地、引上
け、自らを興り、お多岐の女隊、今所の
名匠を主と見物とあり、余も、あの世に
をり、とある、浦島、後、徳川頼倫侯と
折去の急報、接す、又、此、山若と
部、又、す、飲村後二、と、廿十三、田、心、法
安の、集、子、別、来、三、田、村、玄、龍、も、有、り、と
故、に、就、を、報、り、と、其、の、由、り、同、お、返、す、
は、冬、史、尾、(狭、水、橋) ち、自、心、采、の、五、毫、の

鈴と贈る。徳川侯遊去るとき今津並海に也
状を記す。今津並海をぬりし日の比谷園者
段に某居の古く雪敷し来り夜に入り和田萬
吉某功、自動車と鐵の代に備へ徳川
邸と泊り申す。吊詞し家職に就て病
状をすく。由茲に申段田原居に一面七
別る

二十日

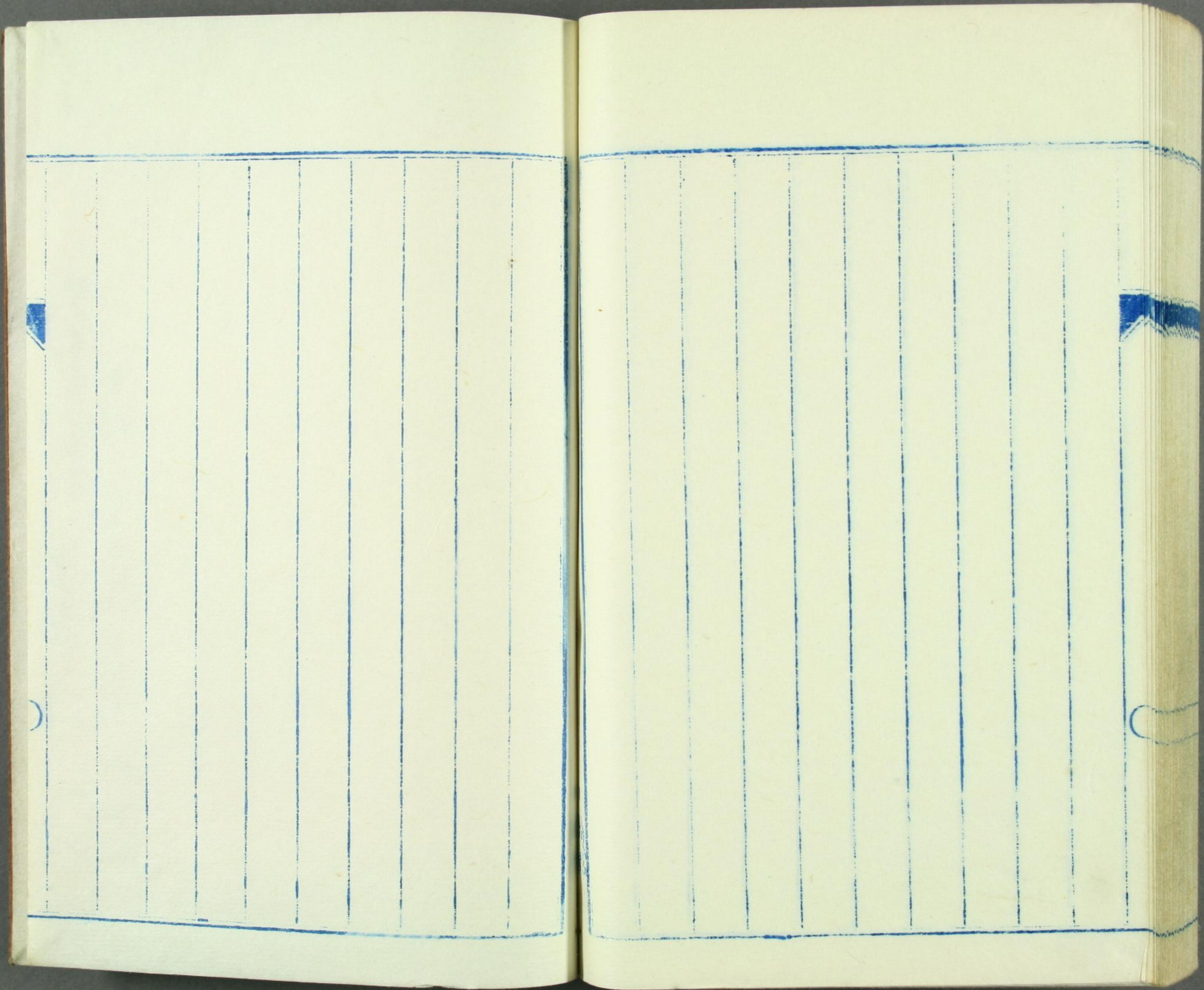
時分、故上以花申す。例の注射と施す服

部料を申す。三毒陽美指交し来り注
射危古海志壯烈を指く来り。云々。手
山並方系利助。花古危をいひ。余の園を
を流り受けけり。と云。信濃居に就て云
々。未決定に心す。廿五日迄決定の言也
至二千五力用也。亦山をいひ。治方、書意
實意を云。印に力所けり。行一時此
の金銀を信託し。云々。十時回を領。場合
の証讓。方々を日比谷の園を領し。聞き
徳川侯裁し。森儀と就て。切讓。午

後二時あり、今も閉り、和田内田(喜)居、心
運を教養、終に報生に出る、尚(始)左巻
の改列を先千、正元三入の喫茶、居、七返
一、大隈合、終く、不華、尚代七十、山拂、
執達、日吏役、体も、
口献、去、
打、
打、

廿〇以後

他之冊ニ採ス



江戶文藝研究

第廿二号

東京大学文学部文学会

